

3 病原体検査状況

(1) 病原体検査の概要

ア 疾患別、月別検査受入状況 (P30 表 12 参照)

受入検体件数 395 件 (全数把握対象感染症 173 件、病原体定点対象感染症 222 件) で、多い順に感染性胃腸炎 95 件、腸管出血性大腸菌感染症 76 件、インフルエンザ 45 件、麻しん 32 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 23 件等である。全数把握対象感染症については、5 月から 10 月にかけて腸管出血性大腸菌感染症の検体が多く、3 月から 12 月にかけて日本紅斑熱、麻しん及び風しんの検体の搬入が相次いだ。また、4 月からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の検査を開始したが、毎月検体の搬入があった。定点把握感染症については、年間を通じて感染性胃腸炎及び流行性角結膜炎の検体が多く、冬期と春期を中心にインフルエンザの検体が搬入された。

イ 疾患別病原体分離・検出状況 (参照:P31 表 13-a、P32 表 13-b)

15 疾患を中心に 15 種類 31 型 (血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む) のウイルス・リケッチア・細菌が分離・検出された。主な疾患から分離・検出されたものは、以下のとおりである。

- (ア) 腸管出血性大腸菌感染症：O157 が 3 件、O111 が 2 件、O103 が 1 件分離同定された。
- (イ) デング熱：デング熱ウイルスが 2 件検出された。
- (ウ) 侵襲性肺炎球菌感染症：肺炎球菌 1 株について、血清型の試験を行った。
- (エ) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 23 件について、遺伝子型の試験を行った。
- (オ) 麻しん：麻しんウイルスが 2 件検出された。
- (カ) 風しん：風しんウイルスが 1 件検出された。
- (キ) 咽頭結膜熱：アデノウイルス 9 件が検出された。そのうち、最も多かったのは 3 型が 5 件であった。
- (ク) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：A 群溶血性レンサ球菌が 2 件分離されたが、すべて型別不能であった。
- (ケ) 感染性胃腸炎 (P33 図 4 参照)：ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス 40/41 型、A 群ロタウイルス、エンテロウイルスが検出された。ノロウイルス G II 型が 41 件と最も多く、次いでサポウイルスが 7 件、アストロウイルスが 3 件、アデノウイルス 40/41 型が 3 件等であった。
- (コ) 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)：A 群ロタウイルスが 4 件検出された。
- (サ) 手足口病 (P33 図 5 参照)：コクサッキーウイルス A16 型が 3 件、同 A6 型が 2 件、ライノウイルスが 1 件、型別不能が 5 件検出された。
- (シ) ヘルパンギーナ (P34 図 6 参照)：コクサッキーウイルス A6 型が 1 件検出された。
- (ス) インフルエンザ (インフルエンザ様疾患も含む)：インフルエンザが 38 件検出された。A2009 型が 19 件、AH3 型が 18 件、B 型ビクトリア系統が 1 件の順であった。B 型山形系統は検出されなかった。
- (セ) 流行性角結膜炎：アデノウイルス 18 件が検出された。そのうち、54 型が 11 件と最も多く、56 型が 2 件等であった。

- (ソ) **無菌性髄膜炎**：エンテロウイルスが2件、ライノウイルスが1件、ヘルペスウイルス3が1件検出された。そのうち、エンテロウイルスについては、エコーウイルス18型が1件、コクサッキーウイルスB5型が1件であった。
- (タ) **RSウイルス感染症**：RSウイルスが5件検出された。そのうち、A亜型が4件、B亜型が1件であった。
- (チ) **水痘**：ヘルペスウイルス3が1件検出された。

表12 採取月別検体受入状況(平成31年1月～令和元年12月)

臨床診断名(疑いも含む)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
全数把握対象感染症	腸管出血性大腸菌感染症		3			17	4	8		10	16	9	9	76	
	日本紅斑熱			1	1	2		2		1				7	
	つつが虫病			1									1	2	
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)						1					1		2	
	デング熱		1						2	2				5	
	チクングニア熱								1	1				2	
	レプトスピラ症								1						1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症				2	4	2	2	3	3	5	1	1		23
	侵襲性肺炎球菌感染症												1		1
	麻しん	1		2	9	6	3		1	2		4	4		32
風しん	1		2	7	4	1		1	2		2	2		22	
小計		2	4	6	19	33	11	12	9	21	21	18	17	173	
病原体定点対象感染症	咽頭結膜熱		1		2			2		1		3	1	10	
	A群溶血性レンサ溶連菌咽頭炎	1	2		2							1		6	
	感染性胃腸炎	10	10	4	12	8	6	8	6	6	7	7	11	95	
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)				2			1	1					4	
	手足口病				3	1	2	4	3				1	14	
	ヘルパンギーナ								3		1	1		5	
	流行性耳下腺炎													0	
	インフルエンザ	13	11	4	5	2						2		8	45
	急性出血性結膜炎			1											1
	流行性角結膜炎	4	3	3	1	1	1	1	1	1	2	1			19
	細菌性髄膜炎												2		2
	無菌性髄膜炎	2							2	2	2		1		9
	伝染性紅斑								1						1
	RSウイルス感染症	1	1		2						1	2	1	1	9
	マイコプラズマ肺炎														0
水痘						1								1	
突発性発疹											1			1	
小計		31	28	12	29	12	10	18	17	11	15	17	22	222	
計		33	32	18	48	45	21	30	26	32	36	35	39	395	

表13-a 全数把握感染症 疾病別 病原体分離・検出状況(平成31年1月～令和元年12月)

		腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O111	腸管出血性大腸菌O157	SFTSウイルス	つつが虫病リケッチア	日本紅斑熱リケッチア	チクングニアウイルス	デングウイルス	レプトスピラ属細菌	麻しんウイルス	風しんウイルス	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	3									6
4類	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)												0
	つつが虫病												0
	日本紅斑熱												0
	チクングニア熱												0
	デング熱								2				2
	レプトスピラ症												0
5類	麻しん										2		2
	風しん											1	1
計		1	2	3	0	0	0	0	2	0	2	1	11

※遺伝子型、血清型のみ試験を行ったもの(カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症)は除く。

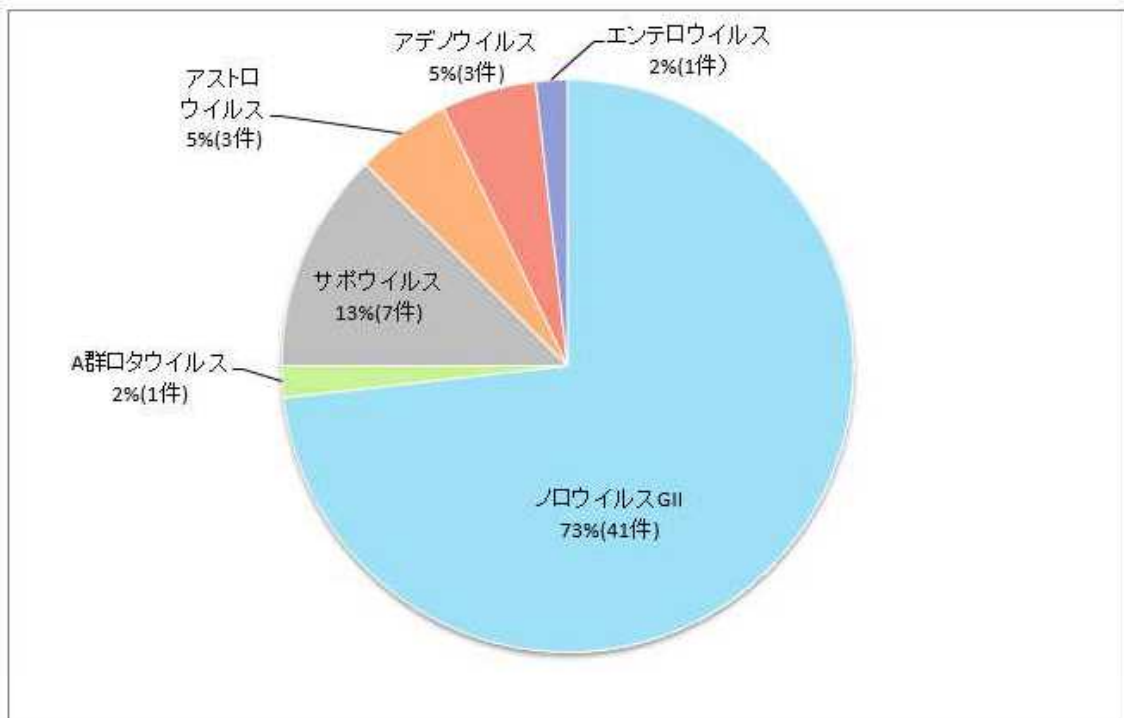
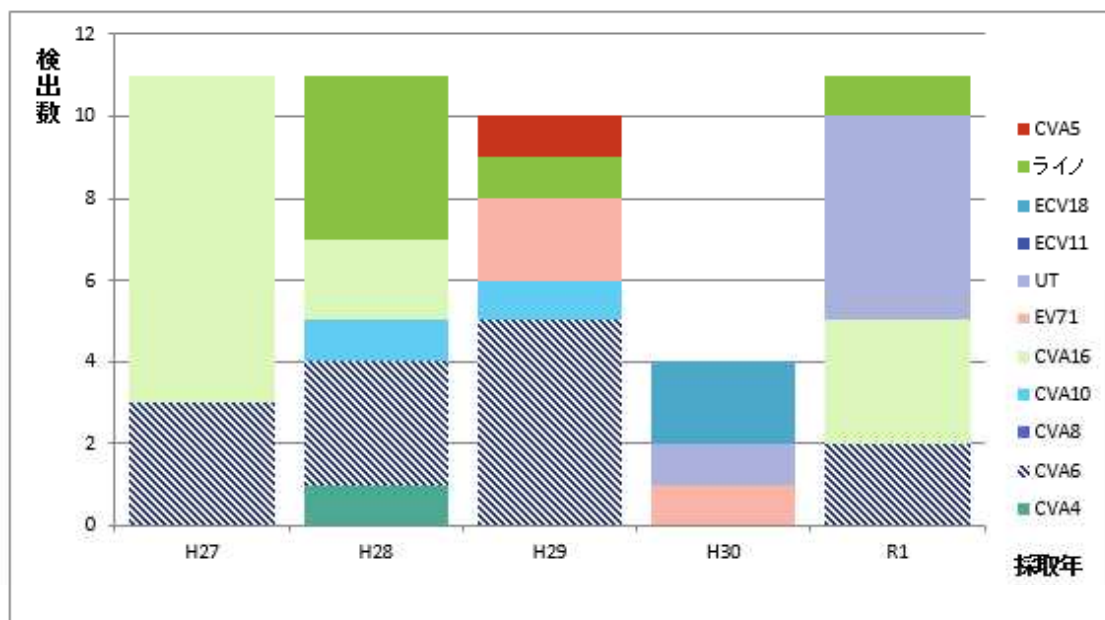
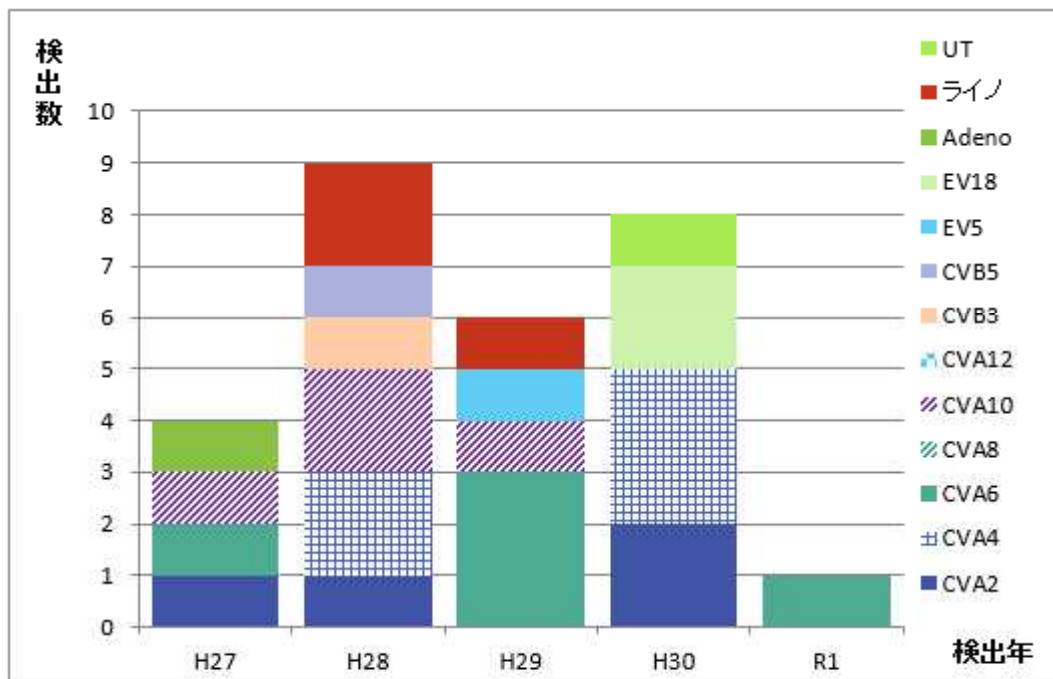


図4 感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合



※CV : コクサッキーウイルス UT : 型別不能

図5 年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス



※CV : コクサッキーウイルス UT : 型別不能

図 6 年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス